

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、12～20℃台を示し、平年並み～やや高めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網—西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり13トンの水揚げで、前週の1.6倍（前年並み）。五島奈留地区では、カタクチイワシなどが1日1統当たり16トンの水揚げで、前週の3.2倍（前年を上回った）。北松南部地区では、カタクチイワシが1日1統当たり14トンの水揚げで、前週並み（前年並み）。
- イカ釣—スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり197kgの水揚げで、前週の1.9倍（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり8.3トンの水揚げで、前週の1.7倍（前年並み）。ケンサキイカは、壱岐勝本地区では1日当たり888kgの水揚げで、前週の4.8倍（前年を上回った）。
- 定置網—五島有川地区では、マサバなどが1日1統当たり39kgの水揚げ。五島魚目地区では、スルメイカなどが1日1統当たり46kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり27kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり129kgの水揚げ。
- 一本釣—北松宇久地区では、ブリが1日当たり316kgの水揚げで、前週の4倍（前年を上回った）。野母地区では、マアジが1日1統当たり11kgの水揚げで、前週の73%。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（2/11～2/15の5日間）沖合イカ釣（船凍船）は、島根沖で操業。

沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐諸島周辺～兵庫沖～能登半島沖で操業。

鳥取県西部（沖合船）4日延58隻、総計10,909箱、1航海最高420箱、平均188.1箱。

スルメイカを漁獲、魚体は20～25入り。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>